

記載例

社会課題の解決と企業成長の同時実現に関する事業評価

<解決しようとする社会課題とアプローチ方法>

ホテルで出る廃棄物のリサイクルをさらに強化し、ごみの削減を徹底する。

<社会課題解決に向けた事業活動と見込まれる自社への経済効果>

【社会課題解決に向けた現在の事業活動】

これまで当ホテルでは宴会場やレストランで使用するプラスチック製ストローの使用の取りやめ、プラスチック製品の「ヘアブラシ、くし、かみそり、シャワーキャップ、マドラー」を代替素材に変更または廃止し、必要量を宿泊者にとってもらう形式に変更してきた。また、食品ロスの削減に向けて、レストランで生じる生ごみをコンポストにて堆肥にし、それを契約農家に送り、契約農家で育てた農産物を当ホテルのレストランにて料理に活用することを進めてきた。

【社会課題解決に向けた挑戦的な事業活動】

環境配慮の取組をさらに推し進めるために、当ホテルの結婚式場で発生する大量のロスフラワー（結婚式で使った生花）をリースやキャンドル、式場の飾りに再利用することに取り組む。また、キャンドル等はホテルのショップにおいて販売を行う。
また、これまで蓄積してきたデータをもとにAI技術を活用して精緻な需要予測システムを導入し、必要なメニューや品数を予測することで、当レストランの食品ロスの削減に努める。これにより、廃棄物を●%削減することができるほか、コスト削減、利益増加にもつなげていく。

【見込まれる自社への経済効果】

廃棄物の削減によるコスト削減や環境配慮型のホテルへの欧米豪からの宿泊客の増加が見込まれ、利益率が増加する見込みである。
環境を意識した式場利用者が増加し、当ホテル式場にて挙式をあげる件数が今後●%増加する見込みである。
環境配慮をしているホテルとしてのイメージアップにつながり、従業員の離職率が当初から低下する見込み。

【事業活動のロジックモデル】

別紙にて記載

<事業活動を通じて5年後に目指す自社の姿>

快適さと環境配慮のあるホテルとして、競合他社と差別化され、様々な利用者、特に欧米豪からのお客様に選ばれるホテルとなっている。

<事業活動を通じた自社の挑戦的な目標>

社会課題解決に向けた目標			
指標	分野	環境	廃棄物の削減量
現状	2023	年	●トン
目標	2028	年	2023年比30%減

企業成長に向けた目標			
指標	分野	経済	コスト削減率
現状	2023	年	0%(基準年)
目標	2028	年	30%(2023年比)

<事業活動を通じて見込まれる地域社会へのインパクト>

分野	見込まれる地域社会へのインパクト内容
環境	生ごみの再利用、ロスフラワーの再利用、AIによる精緻な需要予測により、市内のごみ削減に貢献する。
社会	気候変動対策に取り組む企業のロールモデルとして積極的に発信していくことで、札幌市の魅力あるまちづくりに貢献する。
経済	環境配慮型ホテルが対外的にPRされることで、海外客が増加し、札幌市内の観光客数の増加に寄与する。

<地域社会へのインパクトに関連するSDGsのゴール>

																
	○						○	○		○	○	○		○		○

記載例

事業活動のロジックモデル

事業活動	事業活動のロジックモデル			
	インプット 事業活動を行うために必要な資源(人材、モノ、資金)	→ 行動 事業活動を行うために必要な行動	→ アウトプット 行動によって生まれるモノ・サービス・状態	→ アウトカム 事業活動が目的としている効果
ホテルで出る廃棄物リサイクル事業	現在 業活動 資源調達ラインを担当する従業員を配置	→ 調達先の見直しによるプラスチック製備品の取り止め、変更	→ プラスチックに代わる宿泊備品の提供	→ プラスチック廃棄物の削減
	現在 業活動 コンポストの設置、契約農家との連携体制の構築	→ 生ごみを堆肥化	→ 契約農家で堆肥を使って農産物育成、レストランでの料理に活用(付加価値のあるサービス提供)	→ 利益率の向上
	事挑 業戦 ロスフラワーの回収	→ ロスフラワーをリースやキャンドル、式場の飾りに再利用	→ 新しい式場づくりに貢献(式場の演出プランの増加)	→ 廃棄物の削減と新規顧客開拓
	事挑 業戦 宿泊者や天候などの情報とレストランでの食品ロスの量などのデータ	→ AIによる需要予測システムの構築	→ 精緻な需要予測によるレストランでの作りすぎ防止	→ 更なる食品ロスの削減